

地域に響くバッハの音楽

NHKラジオ
明日へのことば
2012年9月23日

鈴木 雅明(すずき まさあき、1954年4月29日-)
バッハ・コレギウム・ジャパンの音楽監督、チェンバロ・オルガン奏者。



バッハ・コレギウム・ジャパン事務局
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷
5-29-7 ドルミ御苑402

Tel: 03-3226-5333

Fax: 03-5362-5445



1990年に<バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)>を創設以来、バッハ演奏の第一人者として名声を博してきた。

音楽監督としてしばしばグループを欧米の主要ホール・音楽祭に率いては、雄弁かつ透明なサウンド、本質に迫る演奏アプローチで、極めて高い評価を積み重ねている。

神戸出身の58歳。チェンバロとバロック音楽の演奏で活躍。ここ30年来、調布に住んでいる。

今年の6月に、日本人初のバッハメダルを受賞。メダルはドイツマイセン焼の陶器、裏にバッハの横顔が刻まれる。ライブチャヒはバッハとは縁が深い町。彼は27年間、ここに住み1750年亡くなっている。

ボクがバッハメダルを受賞したことは、バッハも驚く極東の出来事でしょう。バッハ音楽はキリスト教の音楽。遠く離れた日本の地でバッハ音楽の普及に努めたことで今回受賞したのでしょうか。1990年に結成した古楽団体・バッハ・コレギウム・ジャパンのコレギウムとはラテン語で「仲間」の意味。

東京芸術大学作曲科およびオルガン科を経て、1983年までアムステルダム・スウェーリンク音楽院にてチェンバロとオルガンをトン・コープマン、ピート・ケーに師事。東京芸術大学古楽科を設立し、2010年まで20年にわたり教鞭を取った。

1992年から定期演奏を始めて99回が終った。演奏はバッハの頃の18世紀の楽器(古楽器)をつかうようにこだわっている。迫力は弱い音に膨らみがあり、かげりもある。

生まれた時から、そばに音楽があった。芸大に進み作曲科、のち大学院でパイプオルガンをやった。2000年には古学科をつくる。1990年の終り頃から海外での演奏を開始。

9月11日に調布市民にバロック音楽のリハーサルを公開した。抽選で500人ほどの方々が来場された。バッハはスピード感のある音楽を書いていて、頭でなく身体で反応する。18世紀中ごろから終わりまで、音楽は人の心をはげましたり、喜ばせたりしたものだ。音楽の父バッハ1685年に生まれ1750年に亡くなっている。

ジャズのバッハも楽しい！バッハが生きていた時代、バッハは音楽家の代名詞だった。2012年3月21日にはチャリティコンサートを実施。

18世紀の生活では、今以上に「死」がまじかにいて、人々は言葉ではなく音楽で慰められていた。バッハには20人の子供がいた。

教会カンタータの全曲録音が2013年2月に終る。歴史的瞬間を迎える。そののち数年後に、CDが世に出る。

新世代の育成が重要で、今後20代、30代が中心になる。

鈴木さんは朝日新聞に電話で「バッハの音楽の持つ国境を超えたメッセージを日本人である僕が伝えることに意味があると思ってやってきた。そのことが評価されてたいへんうれしい」と話した。

才能は情熱の量である(NIKKEI BP NET)

バッハを主なレパートリーに、オルガニスト、チェンバリスト、指揮者として活躍する、鈴木雅明(1954-)である。そのバッハへののめりこみようは、俗な言い方だがハンパではない。最近も、こんなことがあった。

あるコンサートで、鈴木氏の率いる合唱団、「バッハ・コレギウム・ジャパン」の歌手でもある鈴木氏の夫人と顔を合わせた時、彼女がこう言ったのである。

「(主人が)もうほんとに忙しくて、なのにすごく元気だから、どうしてかと思って聞いたら、『(バッハの)平均律(クラヴィーア練習曲集)が好きで好きでしようがなくて、だから楽しくてしようがない』っていう返事が返ってきたのよ」

このとき、鈴木氏は、バッハの《平均律クラヴィーア曲集 第2巻》の演奏会の準備にとりかかっていた。それを「好きでしようがない」から、いくら忙しくとも元気はつらつとは！これもまた情熱だなあと、凡人の筆者はいたく感じ入ってしまったのである。

何年か前のことになるが、鈴木氏と、バッハをめぐって対談したことがある。そのときも、いったん話し出したら止まらない氏の情熱に、ひたすら圧倒されてしまった。

氏の内部から放散している、「やむにやまれぬ何か」の気配を、感じないではいられなかったのである。このひとは、放っておいたら、朝まででも語り続けているだろうな。つくづく、そう思った。